

2022年度 日本獣医がん学会 第1回定時社員総会 議事録

\*会議回数については積算回数に整えて追って訂正いたします。

開催日 2022年7月3日(日) 13:00-13:50

場 所 ホテルニューオータニ 東京 芙蓉東

出席者：代議員（五十音順）：石垣久美子、市川美佳、伊東輝夫、上田広之、宇根智、大石太郎、大参亜紀、岡田響、小山田和央、賀川由美子、廉澤剛、小島健太郎、齋藤隆広、佐々木悠、澤田治美、高橋朋子、田川道人、武田晴央、谷浩由輝、塚田祐介、長田雅昭、西戸達郎、野上英、橋本砂輝、長谷往明、林光児、原田慶、古川敬之、堀川歴央、南智彦、湯木正史、鷺塚章（33人）

議決権行使書提出：新井賢、入江充洋、岡嶋俊男、児玉恵子、佐伯亘平、佐藤雅彦、瀬戸口明日香、高平篤志、富安博隆、西村亮平、野口俊助、藤田淳、藤原亜紀、三澤果林（14人）

欠席：保坂創史、水野拓也、林宝謙治（3人）

理事（議決権なし）：石田卓夫、藤田道郎、杉山大樹、皆上大吾、武信行紀、高橋雅、浅野和之、金井詠一、児玉和仁、小林哲也、井上明、高木哲、辻本元、中川貴之、細谷謙次（15人）

監事：三宅龍二・水上浩一（2人）

審議事項

議事：

第1号議案：2021年度事業報告並びに収支計算報告

1) 各委員会等事業報告（会場にて報告）

2) 2021年度収支計算報告（資料1、2）

第2号議案：2022年度修正予算案（資料3）

第3号議案：次期理事選出方法に関して（資料4）

その他 特になし

その他 特になし

以上について、議長を石田会長、進行を杉山理事が務めて審議を行ったので議事録に記録する。

## 決議事項

### 第1号議案：2021年度事業報告並びに収支計算報告

#### 1) 各委員会等事業報告

学会雑誌編集委員会：藤田 道郎 担当理事

Vol. 10 No. 1 および2、Vol. 11 No. 1 を発行した。

短報2本で1冊を改善し、原著等のボリュームを増やして発行を目指す。

2022年度以降に認定医の更新条件を検討いただくようお願いしたい。

獣医腫瘍科認定医認定委員会：皆上 大吾 担当理事

- ・オンラインで2回の総合教育講演を実施した。  
懸案として会場での受講者が少ないため対策を講じる必要がある。
- ・認定医試験は2021年10月10日(日)に実施し、3名の1種合格者となった。
- ・2022年度は2022年10月16日(日)に実施予定である。  
(会長より) 試験日程について、10月のVCSと重ならないように

企画委員会：武信 行紀 担当理事

- ・第24、25回学会をオンラインで開催した。
- ・委員会会議をオンラインに移行していただくようお願いしたい。
- ・第27回冬学会：終末期のケア、第28回夏学会：膵臓腫瘍で予定している。

内科療法委員会：高橋 雅 担当理事

- ・24回教育講演1コマ、25回教育講演1コマを企画した。

外科療法委員会：浅野 和之 担当理事

- ・動画で見る腫瘍外科、教育講演を各1コマ企画した。
- ・外科シンポジウムを1コマ企画した。

放射線療法委員会：金井 詠一 担当理事

- ・報告事項なし。

病理委員会：児玉 和仁 担当理事 (賀川委員長より報告)

- ・第25回で「腫瘍のグレード分類」で教育講演を企画した。

JONCOL 編集委員会：井上 明 担当理事

- ・No. 30、31の2冊発刊をした。

WVCC・国際情報委員会：小林 哲也 担当理事

- ・WVCC2024 東京開催：2024年3月21日(木)～24日(日) 4日間  
2021年より1カ月に1回のZoom会議を実施してプログラムの提案を開始している。  
会場はホテルニューオータニ東京の見積が以前の見積に近く、利便性や広さを考慮して決定した。  
開催方式は対面が原則で、いくつかのオンラインでの実施もあり得る。  
東京観光財団に助成申請 (ハイブリッド型開催にも助成範囲が広がっている)

- ・WOC (World Oncology Connections)

米国・欧州・ブラジル・メキシコ・日本が協力し合い、Zoomを利用した無料企画を実施した。

第1回 2022年2月24日 23:00～ Mast Cell Tumors

第2回 2022年4月26日 22:00～ Histiocytic Sarcoma

視聴方法は、日本獣医がん学会ホームページで会員に ID と PW を問合せてもらい、メールにて視聴情報を提供する方法を取り入れ、開発には 10 万円強を要した。

渉外広報・経理担当：杉山 大樹 担当理事

・JAHA オンラインセミナーの開催後援：JVCS 会員も JAHA 会員と同額参加費に。

日程：2022 年 3 月 30 日（水）20：00～23：00 Zoom にてオンライン配信

・ウクライナ人道支援特別セミナーの開催後援

ライブ配信：2022 年 3 月 24 日（木）20:00～21:30、録画配信：2022 年 3 月 26 日（土）～4 月 8 日（金）で実施した。

・田川道人先生による「抗がん剤曝露に対する意識調査」アンケート依頼あり。

協力の後に、会員に還元していただければ、会員にも情報が還元されるため、ご発表をいただくお願いして会員に調査協力の案内をした。

2) 2021 年度収支計算報告（資料 1）杉山大樹

収支報告を税理士 海老澤氏より報告をした。

資料 1 の 3 ページ目「正味財産増減計算書」の経常収益が約 6100 万円あり、内訳は受取会費 2871 万円、事業収益 3223 万円であった。対して費用が経常費用 3975 万円で、内部留保が十分あり、会の運営上問題はなく、今後、世界大会も控えているため運営上問題はないと思われる。

監査報告（別紙 2）水上監事より報告された。

第 1 号議案 決議事項：賛成多数により承認された。

第 2 号議案：2021 年度修正予算案（資料 3）杉山大樹

2021 年度収支決算報告を受けて、2021 年度第 2 回臨時社員総会（メール会議）により決議をいただいた 2022 年度予算の修正予算案についてご審議をお願いいたします。

1) 第 26 回大会を会場（東京ニューオータニ）とオンラインのハイブリッド開催

第 27 回大会を 1/28-29、大阪ニューオータニの会場とオンラインのハイブリッド開催

2) 認定医 1 種・2 種試験実施（2022 年 10 月 16 日（日））

3) 学会雑誌発行

4) JONCOL 発行後援

5) 基礎研究・臨床研究支援

この後、委員会立ち上げの点をご審議いただく予定。

変更点は、決算額、WOC 開催費用 30 万円の追加、研究支援 500 万円の追加をした。

2022 年度事業計画（2021 年度第 2 回臨時社員総会決議事項に基づく）

第 2 号議案 決議事項：賛成多数により承認された。

### 第3号議案：次期理事選出方法に関して（資料4）杉山大樹

本会の次期理事選出方法は定款により「現理事会が作成した新理事名簿を社員総会で承認する」と定められており、その選出方法は都度決めることになっている。近数回の理事改選ではコロナ禍などの不安定な社会情勢を乗り越えるため運営安定化を優先し、無選挙で体制を維持してきた。次回改選では選挙が必要と考え、選挙細則案を作成した。

#### 今後の改選スケジュール

2022年6月17日：2022年度第1回メール理事会で理事選挙細則等の理事改選方法決議

2022年7月3日：2022年度定時社員総会で理事選挙細則決議

2023年5月：理事選挙実施

（公示5月1日、立候補受け付け5月1日-8日、投票期間5月15日-22日）

2023年5-6月：メール理事会で次期理事名簿決定

（総会選出理事の選任審議含む）

2023年6月：社員選挙実施

（被選挙権は全会員、定員40名、公示6月1日、立候補受け付け6月1日-8日、投票期間6月15日-22日）

2023年7月学会定時社員総会にて現社員で新理事名簿承認、定時社員総会終了をもって社員交代→当日別室で新理事会開催：会長選出→新会長により早期に新組閣着手

被選挙権は学会の安定運営のため、被選挙権および選挙権を代議員および理事の範囲で設定することを考えている。

（代議員：廉澤）体制が会員とかけ離れている気がする。会員の意見を社員としても反映できているように思えない。会員の意見を取り入れた成熟度に達しているように感じている。

また、理事誘導型の委員会運営になっているため変える必要があるのではないか。

会員からの意見を拾う機会を作ったらどうか？

具体案がないが、ワーキンググループを作るなり変えていく必要があるのではないか？

（杉山理事）以前にもご意見をいただいたが、定足数のこともあり会員の意見を取り入れる仕組みを考えたい。

第3号議案 決議事項：賛成多数により承認された。

#### その他

1) WVCC2024 開催について

開催日時：2024年3月21日(木)～24日(日) 4日間

決議事項：賛成多数により承認された。

2) 臨床研究委員会の設立について

内部留保もあり、会員への還元できることとして、基礎研究・臨床研究に援助、アワード、医学との連携を考えている。

（中川理事）誰がどのように決めるのか、発表や雑誌投稿することで会員

認定医制度があることを強みに、臨床研究に支援する、世界に発信できる学会になるのではないかと？

医学領域の連携では医師の招聘講演も一案あるが、医学領域における融合では、医薬品・医療器械等の上梓前にある基礎研究から人工的発がんまたは腫瘍を移植したマウス研究、その後、ヒトでの臨床試験があるが非常に大きな乖離がある。“死の谷”を乗り越えたための1つに伴侶動物の自然発がんモデルであるが日本ではあまり進んでいない。海外では医学と両輪で進んでいる。動物モデルとして利用されるのではなく、獣医療で治す対象がヒト医療の前臨床対象であると考えて学会がカウンターパートになり得るのではないかと考えた。

獣医療には治療成績等の基礎データも少ないため、それらを整えつつ、医学とも連携できる基盤となる活動が出来るのではないか。

杉山理事：本委員会で何をするか、だれが行うかは具体的に決まっていない。委員会を立ち上げてから活動内容を検討していく。

その他意見はなく、決議内容ではないため、臨床研究委員会を設立する、とした。

### 3) 認定医の証明取得について

石田会長：会場開催で総合教育講演の参加者が非常に少なかった。コロナ禍でオンラインでも受講証明を取得できる特例を作ったが、会場参加のみ認定講習の受講証明を発行する方向で検討をいただきたい。

皆上理事：会場開催で学会に参加していただくのが重要であろうと思うため、石田会長の提案に賛成する。

杉山理事：認定医講習会の受講証明は会場のみにするかは審議の必要があるが、オンライン配信の範囲をどうするかは、感染症や社会情勢をみながら柔軟に対応したいと思っている。

伊東代議員：受講証明を会場のみにする理由を明確にしていきたい。

皆上理事：本当に受講しているかどうか確認ができない、また受講証明の管理が煩雑でもある。

石田会長：講習を受けるだけでなく、本学会の他の企画にも参加いただく必要がある。

決議事項：賛成多数で承認された。

以上。